

## 第 17 回東日本大震災 NGO 情報交換会

- ・ 日時：2011 年 8 月 16 日（火）15 時～17 時
- ・ 場所：早稲田奉仕園アバコビル 6 階 スカイラウンジ
- ・ 出席者：出席者リスト参照

### 議事録

#### 1 JANIC からの情報提供

##### 1.1 各県別概況：別添 1 参照

##### 【JANIC 藤岡】

###### ○宮城県

- ・ 道路上や河川に堆積したがれきや泥を撤去中。県は 1 年を目標として被災地から排出、3 年で処理を終える見通し。最終処分場に行く前の第二仮置き場の用地確保が課題。気仙沼や、南三陸町の用地選定が遅れており、市町の責任で確保するよう県から求められている。
- ・ 日赤、共同募金、NHK 等の義援金は 65%配分済み、宮城県が独自に受け付けた義援金は 74.1%配分済み
- ・ 8 月 10 日付け県の情報では、避難所は 203 か所、7361 人が避難されている。他県に比べて多いと感じられる。仙台市内については最後に残っていた避難所が 7 月 31 日閉鎖された。
- ・ 仮設住宅 78.3%の完成率。15.5%の気仙沼市が最も遅れており、次いで石巻が遅れている。全部完成は 9 月中旬に見込み。
- ・ 日本製紙、ソニーが震災の影響で事業縮小を決定し、雇用に懸念。
- ・ 雄勝地区の地元漁業者が水産加工会社「OH ガッツ」を設立。地元飲食業者や東京からのボランティアも協力。
- ・ 壊滅的被害を受けた山元町のイチゴ農家が合同で「山元イチゴ農園」再建、大型ハウスを 8 棟建設、観光農園による復興を目指す。
- ・ 在宅被災者への食糧配給では、まだ 1 万人が弁当を支給されている。
- ・ グループホーム型高齢者住宅の第一号が仙台市に完成。認知症高齢者 11 名が入居。このような福祉仮設住宅を 33 棟建設中
- ・ 子どもの学習支援にボランティアが活動中
- ・ 放射線関連では、山形県ががれき受け入れを決定したが、同県の基準が（国より）厳しく処理が進まない懸念。県が学校 1622 施設で放射線量を測定、すべての場所で暫定基準値（国が屋外活動を制限する基準）を大きく下回った。浄水場でも水道水の放射性物質レベルは低かった。
- ・ 震災で延期されていた県、仙台市議選挙は 8 月 28 日投票。塩竈市長、同市議選は 9 月 11 日投票。

###### ○岩手県

- ・ 避難所 164 か所 1980 名の避難者、宮城に比べて 1 か所の人数が少ない。
- ・ 8 月 10 日、陸前高田ではすべての仮設建設が終わったが、入居は 8 月末までかかる。大槌、釜石では入居はほとんど終了したが、コミュニティーの再建が大きな課題。いろいろな市町村からバラバラに入居している住民のため、新たな関係性を築ききっかけづくりとして、いろいろな団体がカフェ活動（例：お茶っこサロン）をしている。
- ・ 生活支援相談員を市町社協が採用しているが、大槌では 20 人の半分が外部から。地元の言葉や顔見知りが少ないというハンデが懸念される。地元の人材を活用したいが、適任者が地域に残って

いないため、思うように採用できていない。

- ・ 高齢者が多いにもかかわらず、団地内が砂利道で歩きにくい、浴槽が高すぎて一人で入浴できない、またそれが原因でけがをしたという状況が報告されている。
- ・ 仮設住宅内での防犯対策として、沿岸部で防犯ブザーの配布を行っている。
- ・ 8月8日岩手連携復興センター主催の仮設住宅環境アセスメント実施会議が開催、従来支援団体が個々に調査に入っていたが、住民の負担になっていたのではという反省のもと、支援団体が連携して共に調査をするということになった。JANIC および正会員団体も8月17日～19日まで調査に参加する。
- ・ 心のケアについては、各地域で巡回ケア活動がなされている。
- ・ 「三陸海の盆」8月11日に開催。
- ・ 7月27日に岩手県保健福祉部のボランティア連絡会が開催された。
- ・ 添付資料：義えん金配分状況、心のケア活動（関連機関情報（在宅通所含む）、避難所一覧）、仮設住宅環境アセスメント調査票

#### ○福島県

- ・ 7月30～31日の福島/新潟集中豪雨の対応に、いわき市などからボランティアに向かった。只見、金山町ではボランティアセンターが設置され、多くのボランティアが活動中。
- ・ お金関連では二重ローン問題の事例集が全国銀行協会のHPに記載されている。  
<http://www.zenginkyo.or.jp/news/entryitems/news230731.pdf>
- ・ 義えん金の配分の遅れが目立つ。
- ・ 福島北署が仮設住宅に警察官の立ち寄り所を設置、ヨークベニマルが二本松市で買い物バスを運行開始、都内大田区の二輪販売店が相馬市と新地町の仮設に自転車を寄贈、などの情報がある。
- ・ 仕事について、南相馬でふくしま巡回就職相談ステーションによる相談が行われている。
- ・ 県内病院の2割超で震災以来常勤医が減少。県では「地域医療支援センター」を福島医大内に設置し対策を検討している。心のケアについても相馬市に拠点を設置する計画で、福島医大が協力、同大学は医療拠点立て直しの中心になっている。
- ・ 障がい者の就労継続支援事業所がいわき市で再開。相馬市で石油化学メーカーダウ・ケミカルが高齢者向け住宅を寄贈。
- ・ 子ども関係は福島独特。佐渡島、浜松市等が福島の子どもの野外活動などで招き地元の子も達と交流という動きも。飯館村の子も達ドイツで研修。
- ・ 放射線、9月より警戒区域で除染開始。コメの放射線物質検査を1000箇所以上で実施予定。郡山では市民による「郡山市の放射線を除去する有志の会」設立。学校・通学路・公園の除染から着手予定。
- ・ 福島大学がアメリカの分析装置メーカーの協力で高精度の分析装置の無償貸与を受けて研究を実施
- ・ いわき海域の魚介類の放射線物質が基準値を超えており、県内領域では漁が行われていない。
- ・ 日弁連の会長が、経済産業省資源エネルギー庁が広告代理店アサツーディ・ケイに委託したメディア情報監視業務に対し「表現の自由を侵害」として声明を出している。
- ・ 県内でアーティストによるイベントが盛んになっている。大友良英さん、詩人の和合良一さんの「プロジェクト FUKUSHIMA」が始動。坂本龍一さんが来て15日からイベント。映画とトークで福島の未来を考える”Image Fukushima”などもある。
- ・ 情報シート（追加）に、プロジェクト FUKUSHIMA！「8.15 世界同時多発フェスティバル」の詳細、遠藤ミチロウ、頭脳警察なども出演、多くの人に参加した様子が報告されている。

- ・ 原発周辺土地の国有化に対し地元住民の反対運動が起きている。
- ・ ふくしま NPO・市民団体連携復興プロジェクト会議（ふくふくプロジェクト）の総会が開催されるなど、会議や講演会なども多い。
- ・ 添付資料：ふくふくプロジェクト・ニュースレター、ビーンズこころの相談室・まめの木プロジェクト、河田昌東先生講演会「食品の放射能汚染とどう向き合っていくか」、ふくしま被災者支援ネットワーク第二回講演会「三宅島全島避難の実体験に学ぶ」、プロジェクト FUKUSHIMA！「8.15 世界同時多発フェスティバル」

## 1.2 「原発問題と持続可能な社会に関する JANIC の考え方」アピール；別添 2 参照

### 【JANIC 藤岡】

- ・ 8 月 4 日付で、JANIC としての立場を表明したポジションペーパーのようなものを出した。英語版は海外ネットワーク NGO 等へも送る予定。（以下概要を紹介）

## 1.3 災害ボランティア活動支援プロジェクト会議（支援 P）貸与携帯について

### 【JANIC 難波】

ソフトバンクから支援 P を通じてご提供頂いている携帯に関して、現在 5~6 台貸与できる。新規の団体優先というスタンスには変わらないが、すでに借りている団体にも貸し出し可能。反対に、不要になった団体は随時ご返却頂きたい。

## 2 参加団体・組織からの活動紹介、情報提供

### 2.1 グッドネーバーズ・ジャパン（東江）

岩手県釜石市に事務所を置き、釜石市・大槌町を中心に活動している。仮設住宅入居者の孤立を防ぐためのカフェ・プロジェクトを続けており、地元社協が中心になっているお茶っこサロン（週 3 回程度）に協力する形をとっている。

課題としては、資金不足やお茶っこサロンとしての飲料無償提供の地元商業活動への影響を心配する声がある。可能な限り地元にお金を落とせるように、工夫して進めたい。

### 2.3 JHP・学校をつくる会（田中）

宮城県南三陸町で活動中で、8 月 16 日で第 26 次隊、140 名を派遣。

南三陸町災害ボランティアセンター（DVC）に派遣しているが、同センターは来月末まではその名称で活動を継続する予定のところ、当会でも支援を継続する。

8 月 30 日~9 月 7 日まで 8 泊 9 日でボランティア派遣を行う。

「小山内美江子国際ボランティアカレッジ」を 9 月 10 日開講予定。半年間体系的に国際協力に関する講義を受け、その後カンボジアで現地研修を行う。池上彰さん佐高信さん等の講義の中で、震災の復興支援の在り方に触れ、スタッフが南三陸町での活動に基づく講座受け持つ。原発についても明治大学藤井石根名誉教授を招き講義を行うなど、幅広い問題提起をしていく予定。

震災関連のリーフレットを作成したので、希望の方はお渡しします。

### 2.4 チャイルド・ファンド・ジャパン；CFJ（西村）

岩手県大船渡市で、つながりをという意味でベンチづくり、4 か所仮設住宅等においてお祭り（2 か所は青山学院大学の学生と、2 か所は地元の有志と）実施。

岩手・宮城県のソーシャルワーカーを対象にグリーンワーク・プロジェクト、日ごろ子どもたちと関わっている大人を対象に子供のこころのケアのプログラムを実施中。

10月22日幼稚園教諭、保育士を対象に仙台近郊で「第二回子どものこころのケアプログラム」を実施予定。これら職業の方で（被災児童等への対応に）困っている方がおられたら参加ご案内しますので宜しく。こころのケアプログラムは、ルーテル学院大学やキャンプ協会等との協働で、外国人住民等も対象に、不定期に実施している。

## 2.5 日本国際ボランティアセンター；JVC（下田）

南相馬で災害FMの運営をサポート、電波が弱く届かない避難所もあることから、目下、インフラのバックアップを進めている。

気仙沼市では、仮設住宅の建設が遅れている。数が足りないため、一関市内に二カ所建設することが決定。仮設住宅は80か所にのぼり広範囲。これに対し、社協ボランティアセンター、生活相談支援員のみでは、手に負えない模様であり、NPO/NGOとの連携が今後一層必要になる。週二回ペースでどのような対応が必要になるか協議している。

## 2.6 日本キリスト教協議会；NCC（興石）

キリスト教各グループのネットワークとして機能している団体で、教会やグループを超えてエキキュメンカルな働きを進めている。いろいろな問題意識を持ち動いているところと、被災した方々と共に歩くことを重視して活動しているところなどいろいろある。在日外国人 인권委員会、平和、核問題委員会など、イシュー別に集まったボランティアのグループがある。そのような活動も凝集性が高まりネットワークが出来つつある。海外から支援も受けながら、福島の高校に線量計を提供するなどの活動を行った。福島県については、JANIC 等他の団体等と協力しながら活動を進めたい。

## 2.7 シャンティ国際ボランティア会；SVA（長谷川）

気仙沼市では、震災直後から緊急救援を実施、目下避難所や仮設への巡回をメインに支援を行っている。直近ではイベントの交通整理や準備支援など、また、学生ボランティアとして、夏休みに限り家庭教師を派遣している。

岩手県沿岸部の4か所（大船渡、陸前高田、大槌、山田町）では、先月から移動図書館を開始。目下活動は週末のみだが、今後は場所を拡大すると同時に、本を貸し出すだけでなく、コミュニティー形成に貢献するくつろぎの場のような機能も持たせていきたい。毎日新聞でも報道された。

## 2.8 ピースボート（合田）

宮城県石巻市で活動。平時は一日200人のところを、夏休みの今は約300人/日のボランティアを派遣している。炊出しはほぼ今月中に終息、支援の必要な人には食材の提供を継続。物資についても、石巻専修大学の倉庫の民間の物資と石巻市が管理する物資を合わせて共同管理をする方向で、11月末から動かし始める計画。

泥かきは、社協に上がってきているニーズに関しては、99%終了しているが、社協に上がってこないものが圧倒的に多いため、今後、取り壊し予定の家屋と泥かきした家屋を個別に洗い出しして、きめ細やかなニーズを吸い上げ、どこまで継続するかを検討していく。

お盆もあったが、9月23日のお彼岸を控えて、お墓の清掃をやってほしいという依頼が多く、50～100人/日ボランティアを派遣。

避難所の布団乾燥やダニ・害虫対策を継続、また、宮城県4者会談から出た提案で、避難所に木枠を取り付けて網戸を設置する熱中症対策を数か所で実施している。

7月末の自衛隊撤退に伴い、2か所（石巻・女川）で入浴支援を実施する。

女川、石巻は仮設建設が遅れており、9月に入っても生活必需品の配布を実施。

漁業支援では漁協と連携して清掃活動しているが、最近は養殖の手伝いも依頼されることもある。南相馬の子ども達の一時的避難の17プロジェクトの一つとして、49人をピースボートで海外に連れて行くという企画が無事終了。海外は1団のみだったが、保護者の声の中には、田舎に疎開するというマイナスなイメージがあるが、海外という一度は行かせてみたかったということもあり、前向きに送り出せたという声もあった。

新潟・福島での豪雨への対応として、新潟に物資を輸送、福島県金山町に石巻から泥かきボランティアを派遣した。

## 2.9 IV-JAPAN（山本）

8月中旬から11月下旬にかけて支援活動を予定している。

東北3県と茨城県の在日外国人に対する、ニーズ調査とその対応が主な活動内容。本日は実際に現場で活動するチームを帯同。松本がチームリーダーで2名がメンバー。

（松本）フィリピンから昨日着いたばかり。本支援活動の構想は4か月前からあった。共同募金会の助成を受けている。チーム6人が車でキャンプをしながら巡回する。

ビザを取るのが大変だった。領事館によると日本からフィリピンへのボランティアはよくあるが、フィリピンから日本へボランティアをするケースは無いから、とのこと。22日に支援物資を保管してある石巻に入るため、現地でも関連団体にはご協力願いたい。

チームは協力隊OB/OG（ラオス・タイ）で主に構成されている。共通言語は英語だが、言葉に困っている団体や人に協力したい。特に、国際結婚している方は、今回の震災支援の盲点ではないかと考える。先日自殺された被災者の配偶者がフィリピン人だったというニュースや、福島から退避してきたフィリピン人は100人余りというニュースはフィリピンでも入るが、断片的。しっかり調査してまとめたい。

## 2.10 ホープワールドワイド・ジャパン；HWWJ（平山）

過去二週間の大きな動きとしては、亘理町災害ボランティアセンター（DVC）と協働で8月5～6日「はじめのいっぽ祭り」を開催。DVCとしては、ボランティアへの感謝と被災者の交流の機会を、一方の当団体としては、町民の交流機会を趣旨においたイベントだった。2日間で受益者数が2600人を超え、大成功だった。企業からの協賛や物資提供もあり、町民に喜んで頂けた。毎週末10人前後のボランティアを東京から派遣しているが、この週はイベントの開催があって、20人前後のボランティアを派遣。

また、音楽事務所の協力でプロが設置したステージと映画のセットで上映会を実施、大人も子どもも喜んでもらった。そのスクリーンを活用して、DVCが亘理町復興の様子をまとめたVTRを流したが、皆の心が一つになったような大きな感銘を残した。

週末ボランティアの方では、東京から東松島市港島の炊き出しを実施している。

なお、亘理町DVCは今月末で閉鎖となり、その後は別の形の支援を考えている模様。

## 2.11 シャプラニール＝市民による海外協力の会（筒井）

福島県いわき市で市内3DVCに協力してきたが、今月末で閉鎖となるため今後の方針を検討中。5月以降避難所から一時提供住宅に移動した方への物資の提供を行い、市内3千世帯のうちの3分の1約千世帯に届けることができた。

いわき市内の避難者の多くが雇用促進住宅（2000世帯位）と民間借上げ住宅（1000世帯）に入

居。地元 PNO や社協は雇用促進住宅を中心に支援を行う方針で、民間借上げが手付かずになる可能性があり、それに対してどう取り組めるかを考えている。

社協・地元 NPO 等との協働で、集まった物資を雇用促進住宅や民間借上げ住宅に対し、5、6 回に分けて届ける活動、夏休み中のスクールバスを中学校 2 校の PTA に協力して運行中。

違う学校に行っている子では、引きこもりがちになっている子どもが多いことや、学校がそのまま間借りしているところでは、両親が子どもを連れて行くことができない等、様々な問題が浮き彫りになっている。駒沢大学と協力し、大学生がインタビューをして FM いわきのラジオ番組にしてい、「子供の声を届ける」企画が進行中。

他市町村の原発からの避難者がいわき市内に約 2 万人いる。物資の提供でもカバーしているが、避難者が各地に戻った時、どういう問題が生じてどう対処するのかを今後考える必要がある。

7 月までは 7 人体制、8 月には 4 人体制、今後は 3 人体制で震災対応活動を実施予定。

## 2.12 東京英語いのちの電話 ; TELL (大滝)

4 月からサイコロジカル・ファースト・エイド研修を、16 回約 200 名の支援者に対して実施。

先月は石巻で活動中の NGO のスタッフを対象に実施。支援者の不安が増えてきているのが感じられる。

9 月以降は、通常の研修に加え、各団体内でトレーナーを養成できるようなプログラムを作っている。各団体で研修が続けて行けるようにしたい。

## 2.13 電通 (梅津)

ソーシャルソリューション局で、これまでに数件の企業と NGO/NPO とのマッチングを実施。

最近では中長期的支援をしたいという企業からの問い合わせがあり、自分自身は特に産業や農業支援等地元の団体を対象にした支援活動に取り組み始めている。

現地 NPO については、目の前の課題解決に全力で取り組む中、中長期的な活動についての実施体制は残念ながらまだ十分整っていないといった印象を持つことがある。今後、各 NPO が中長期的にどのような体制で活動を行っていくのかがより明確になると、企業とのマッチングもより進むだろう。

## 3 意見交換ほか

### 3.1 福島避難緩和後の支援

- ・シャプラニール：原発避難地域が緩和されて現在避難指定区域の住民がそこに戻る際に、多くの問題が生じると想定される。その対応を予定している団体はあるか。

→JANIC 藤岡：福島支援については 9 団体で情報交換会を行ったが、次の動きを考えたい。福島においては情報発信も含めて、JANIC も取り組むという常任理事会の承認が取れた。「シナジー」次号は福島特集。福島に着手する団体も増えており、オイスカの池田さんからは、福島の子どもを栃木に招く「ニコニコ・キャンプ」や郡山市でのイベント 8 月 25～27 日「夏キッズフェスタ」「つみき広場」などの情報を提供していただいた。震災メーリングリストに添付されているため、ご一覧頂きたい。

### 3.2 外国人住民への支援について

- ・IV-JAPCN (松本)：参加されている団体で、国際結婚されている東南アジアの方の情報が何かあったら伺いたい。

→NCC：避難所で日本人だけがいるところよりも、外国の方がいた方が物資の配分がスムーズだと

聞いたことがある。日本人責任者だと全員にまんべんなく行き渡らないと分かるとその物資は配らないのが通常だが、フィリピン人の方は、きめ細かくその物資が必要でない人を調査し必要な人のみに渡すので無駄にならないと聞いた。また別のことだが、家族との関係が難しいと聞いたことがある。

→シャプラニール：東京都国際交流委員会で委員をしているが、外国人からの問い合わせが少なかったとのこと。外国人生活者がどこから情報を入手されたのか、元々の地域のコミュニティーなのか、出身国のコミュニティーなのか、教会なのか、商店や飲食店なのか、それを知ることが肝要。そこに情報を流していけば情報が必要な人に届くように感じる。

→IV-JAPAN (松本)：震災前は4000人外国人がおり、現在は2000人という情報(カトリック教会の情報)がある。被災地のフィリピン人はカトリック教会で固まっているが、国際結婚した人が埋もれているのではと感じる。特に日本人男性はそのようなコミュニティーに入っていくのが苦手で苦勞しているのではないかと。タイ・ラオス・ベトナムもどうなのか分からないため、それを知りたい。情報がほしい。

→NCC：外キ協(外登法問題と取り組む全国キリスト教連絡協議会)と聖公会が岐阜県の可児ミッションを立ち上げて在日フィリピン人支援してきたが、このたびそこが仙台と一緒に何かできないか検討している。在日大韓キリスト教会RAIK(レイク・在日韓国人問題研究所)が情報お持ちかもしれない。

→ピースボート：難民支援協会はそういった情報を多く持っているのではないだろうか。被災地支援も行っている。

→JANIC 藤岡：難民支援協会は日頃からそのような支援をしている。

→TELL：多文化間精神医学会という団体もある。難民の支援も行っている。

→JANIC 藤岡：オイスカも、緊急救援時にフィリピン大使館と協力して在日フィリピン人被災者への物資支援をしていた。

→IV-JAPAN 松本：自治体で国際結婚している人を教えてもらえるのか。

→シャプラニール：自治体はおそらく難しいが、多文化共生推進している国際交流協会等にいけばどうだろうか。

→IV-JAPAN 松本：ボランティアセンターでは？

→シャプラニール：難しい。把握していないのではないかと。

→ピースボート：外国人ボランティアを引き受けているが、石巻DVCでも把握しきれていないようだった。

→NCC：先日外キ協のシンポジウムがあったが、レイクが何県には何人くらいおられるというリストを作成されていた。コンタクトしてみてもどうか。

### 3.3 企業CSRの中長期支援

・JANIC 藤岡：企業から中長期的支援したい声があるというが、企業はどのようなイメージを持たれているのか。

→電通：産業復興を本業に近い所で支援したいという声がある。農業支援や、コミュニティー支援、子どもを対象にした支援や、人づくり・教育など、未来に焦点を当てた支援をしたいという声も聞かれる。

→JANIC 藤岡：JANICでも企業とNGOとの協働を促進したいと考えている。

→ピースボート：企業ボランティア多かったが、その中から物資の提供につながることもあった。今後は企業もNGOも独自の専門性を活かしてやっていく形をとるだろう。NGO/NPOは地元との付き合いもあり、地元のことを知っているという面では連携できるのでは。

産業復興については地元の再生が優先。地元の産業が軌道に乗ってから、外からきた企業が協力する方が、地元にお金が落ちるという面で望ましい。津波被害を受けたところはようやくボランティアが終わって、これから仕事どうしようという段階。

→JANIC 藤岡：社員ボランティア派遣のニーズは多いか。

→ピースボート：非常に多い。企業を背負ってまとまって来られるので、(個別ボランティアの集団より) 上手く機能しパフォーマンス高い。9月まではボランティア派遣を進める。10月からは避難所が終わりフェーズが変わる見込み。

### 3.4 活動報告書について

・ピースボート：活動報告書について、どの時点で区切って出しているのか。

→JANIC 藤岡：3か月4か月を機にというところも見受けられたが。

→ピースボート：冊子をまとめるとかではどうか？

→JHP：5月末(総会を機に)に中間報告資料・会報を兼ねて作成。

→シャプラニール：冊子をつくることはしない。報告は随時出している。3月末と6月末で区切って資金のまとめや寄付下さった方への報告を行った。あとはWEBやメールを使って報告している。会報で比較的多くのページを割いて震災対応活動の特集しており、これも記録となる。

→JANIC 藤岡：JANICでは、全体として、会員団体がどう動いたか、国際協力NGOにとっての震災対応の課題/成果/教訓等を報告書としてまとめる予定。内容検討中だが、おそらくフォーカス・グループディスカッションのようなものをやらせて頂くだらう。また、10月くらいにNGOとして何が出来て何ができなかったのか、見えてきた課題、海外でやってきたこととの共通点等を話合う場を設けたい。分科会等も考えている。助言やリクエスト等あれば宜しく。

別添 1 宮城県・岩手県・福島県情報シート

2 「原発問題と持続可能な社会に関する JANIC の考え方」

(日本語 [http://www.janic.org/pressroom/pressrelease/janic\\_29.php](http://www.janic.org/pressroom/pressrelease/janic_29.php) ・英語

[http://www.janic.org/en/earthquake/news/info\\_en/janics\\_position\\_statement\\_on\\_the\\_issues\\_of\\_nuclear\\_power\\_plants\\_and\\_sustainable\\_societies.php](http://www.janic.org/en/earthquake/news/info_en/janics_position_statement_on_the_issues_of_nuclear_power_plants_and_sustainable_societies.php)

#### ■次回 第18回東日本大震災 NGO 情報交換会

日時：2011年8月30日(火) 15時～17時

場所：早稲田奉仕園 アバコビル6階スカイルーム

以上



### 第 17 回東日本大震災 NGO 情報交換会出席者リスト

	団体名	出席者（敬称略）
1	JHP・学校をつくる会	田中 宗一
2	日本国際ボランティアセンター（JVC）	下田
3	グッドネーバース・ジャパン	東江 菜の葉
4	シャプラニール＝市民による海外協力の会	筒井 哲朗
5	シャンティ 国際ボランティア会	長谷川 香
6	チャイルド・ファンド・ジャパン	西村 梨沙
7	（株）電通	梅津 弓子
8	東京英語いのちの電話（TELL）	大滝 涼子
9	東京英語いのちの電話（TELL）	佐藤 エリザベス
10	日本キリスト教協議会	興石 勇
11	ピースボート	合田 茂広
12	ホープワールドワイド・ジャパン	平山 涼子
13	ホープワールドワイド・ジャパン	金
14	IV-JAPAN	松本
15	IV-JAPAN	山本 哲司
16	国際協力 NGO センター（JANIC）	藤岡・難波・山下